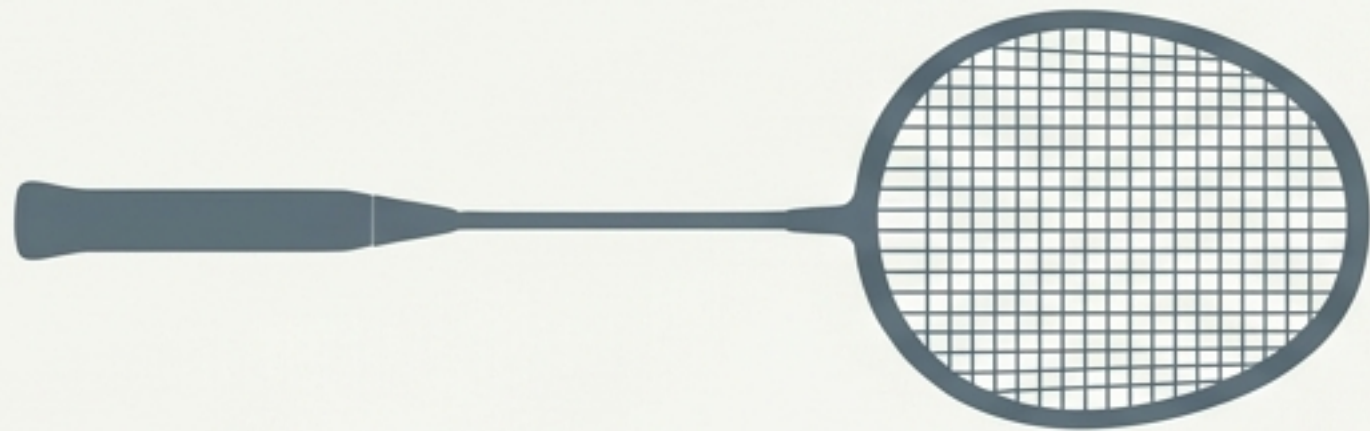


バドミントンの才能と、 成長する才能は、 まったくの別物

なぜ「最初から上手い人」は途中で止まり、
「不器用な人」が最後に勝つのか？

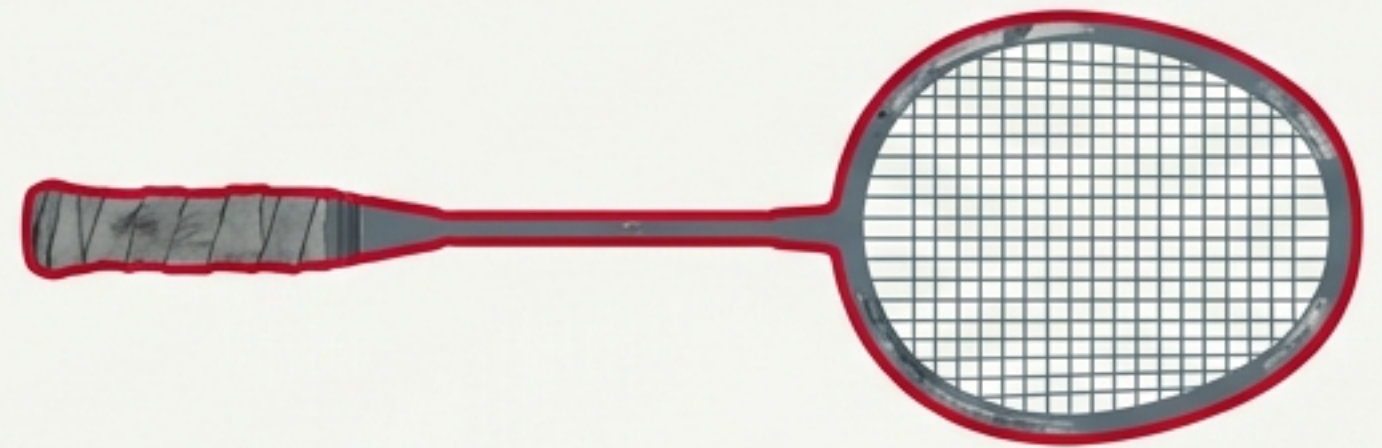
2つの才能を混同してはいけない



「バドミントンの才能」

身体の使い方がうまい。反応が速い。
ラケットワークが柔らかい。
初めて教えた技術をすぐ形にできる。

結果：最初からある程度できてしまう。
周りより勝てる。



「成長する才能」

地味で、痛くて、苦しい能力。
恥をかいても、行動を変える。
わからないものに、向き合う。

結果：最初は不器用でも、
時間を味方につける。

才能がある人ほど、 変わらないことがある

「今の自分のやり方で
間違っていない」という錯覚

1. 勝っている間は、自分の構造を疑わない。

2. 褒められている間は、自分の欠陥を見ない。

3. 最初の才能で進める距離には、限界が来る。

成長する才能とは、華やかな能力ではない。

「自分の未熟さを 直視しても、壊れない力」

言い訳しない。できない自分から逃げない。
「前はこれで勝てた」を現在の免罪符にしない能力。

上達とは、今の自分を
守る行為ではない

指摘・敗北に
直面する

次の練習で
行動を変える

上達とは、今の自分を一度否定し、
別の自分に作り替える行為。

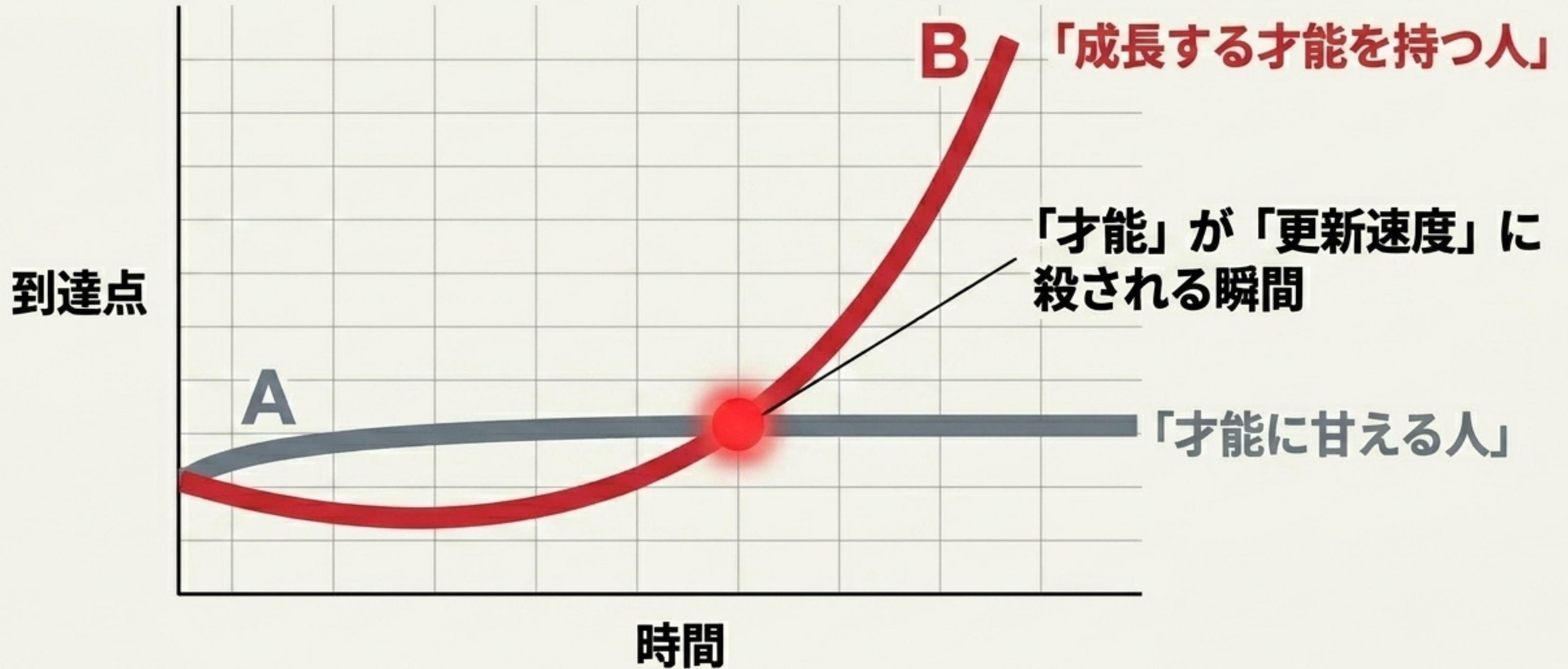
「でも」「だって」
という言い訳の排除

自己否定と価値観の破壊

「できる人」と「伸びる人」の決定的な違い

	【できる人】	【伸びる人】
特徴	最初から上手い、練習場で目立つ	最初は下手、不器用で理解が遅い
指摘された後	ずっと同じ人間のまま試合をする	次の練習で行動が変わっている
自分の価値観	固定資産として扱う	壊せる、捨てられる、作り替えられる
本当の恐怖度	最初が一番怖い	毎回少しずつ別人になり、時間が経つほど怖い

変わる人は、変わらない人を抜く。
ただの因果です。



「才能がない」は、もっとも危険な逃げ道

自分にはセンスがない

昔から不器用だから

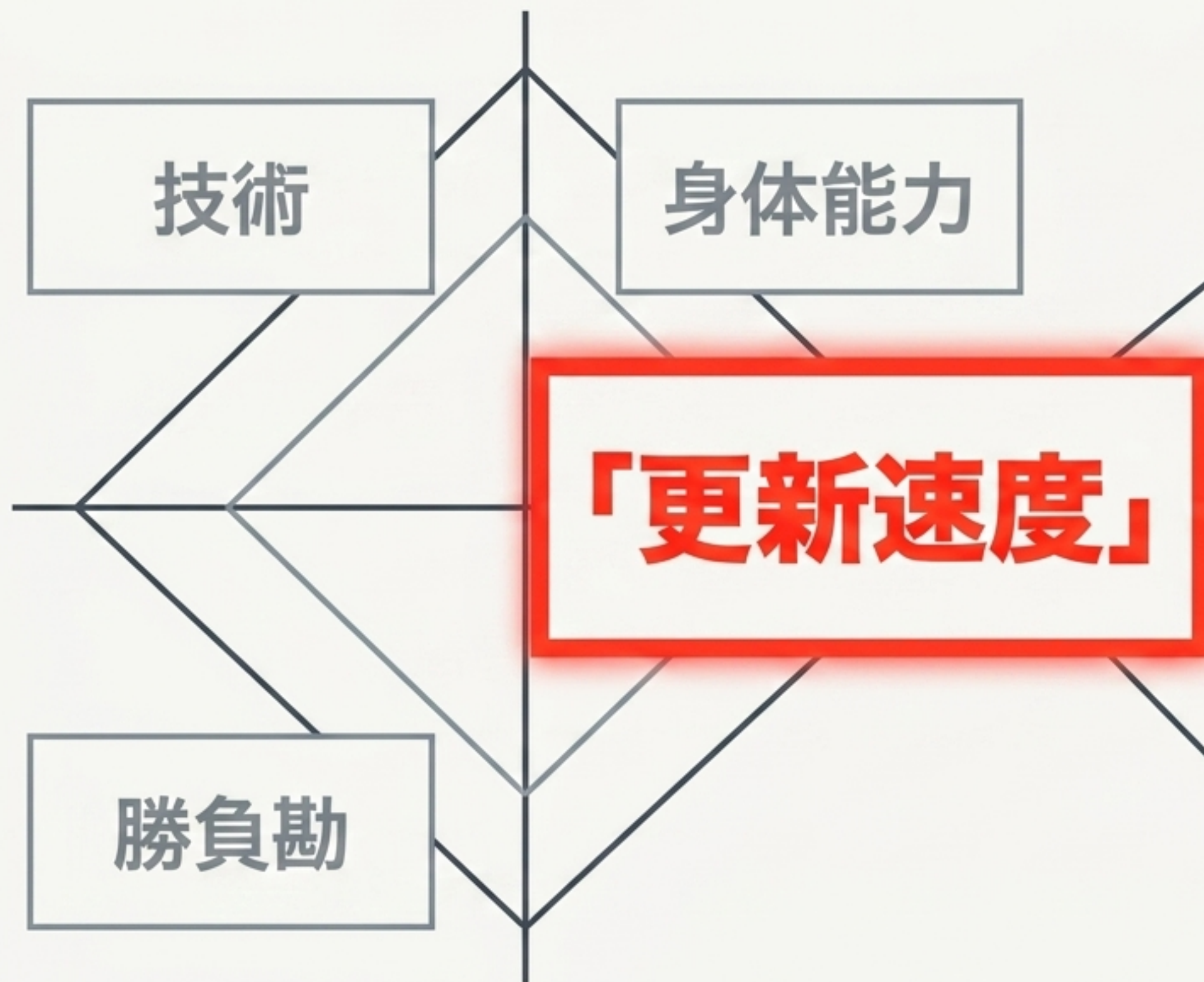
運動神経がない



才能がないと
言えば、
自分の行動を
変えなくて済む。

問題は才能ではない。変わる機会を与えられているのに、
「成長する才能」を使っていないだけだ。

指導者が本当によく見ているもの



- 一度言われたことを、どう扱うか？
- 失敗したあと、何を変えるか？
- 自分のプライドより、上達を優先できるか？

競技の残酷さと美しさ

バドミントンの現場では「今うまい人」が評価されやすい。
しかし、本当に怖いのはそこではない。

「本当に怖いのは、昨日と今日で考え方が変わっている人。
**恥を払って、昨日までの自分を
平気で壊してくる人。」**

毎回、ほんの少しずつ別人になる。
そしてある日、才能に甘えて止まっていた人を静かに抜いていく。

格言

バドミントンの才能は、最初の景色を変える。

**成長する才能は、
人生の到達点を変える。**

才能がある人を羨む前に。

自分は今日、昨日の自分を
更新したか？

その問いから逃げない人だけが、
長く、深く、強くなっていく。